

研究公正推進事業の令和6年度実績及び 令和7年度事業計画

令和7年5月13日

文部科学省、日本学術振興会、科学技術振興機構、日本医療研究開発機構

研究公正推進事業（文部科学省/日本学術振興会/科学技術振興機構/日本医療研究開発機構）

令和7年度予算額
（前年度予算額）
※運営費交付金中の推計額含む

1億円
1億円
文部科学省

現状・課題

研究活動における不正行為の事案が後を絶たず、社会的にも昨今大きく取り上げられていることを踏まえ、文部科学省では「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」（平成26年8月26日 文部科学大臣決定）を策定した。

ガイドラインは、研究機関に対して研究倫理教育の実施を求めており、文部科学省及び資金配分機関に対して、**研究倫理教育に関する標準的なプログラムや教材の作成、実効性の高い研究倫理教育とするための支援等**を求めている。

「科学技術・イノベーション創出の活性化に関する法律」（平成30年12月）においても、「研究開発等の公正性の確保等」が強く求められている。また、科学技術・イノベーション基本法においても、科学技術の振興は、研究開発において公正性を確保する必要があることに留意する旨の規定も策定された。

事業内容

【事業の目的・目標】

研究倫理教育教材の普及・開発や研究倫理教育高度化等により、それぞれの状況に応じた効果的な研究倫理教育の実施等を支援することで、公正な研究活動を推進する。

【事業概要】

<日本学術振興会> (39百万円)	<科学技術振興機構> (74百万円)	<日本医療研究開発機構> (21百万円)
教育		
分野：全ての分野 対象者：主に研究者	分野：全ての分野 対象者：主に研究公正担当者	分野：医療分野
テキスト教材、eラーニング教材	映像教材のシリーズ化 ※実践力強化のための双方向型教育モデルの開発・普及	医療分野の不正事例集
上記教材を活用したセミナー	研究公正担当者向けWS	ヒヤリ・ハット集
研究者の教育効果向上	担当者による研究機関での研究倫理教育の企画力向上	
情報発信・連携・窓口		
	<ul style="list-style-type: none"> ポータルサイトの運用・改善等 シンポジウムの開催（3FA連携） 	<ul style="list-style-type: none"> 研究公正担当者のネットワーク構築
	<ul style="list-style-type: none"> 研究機関からの不正行為を防止する体制の構築の相談対応・助言（3FA） 	

<文部科学省> ○ ガイドラインに基づく履行状況調査等（3百万円）

【事業スキーム】



【これまでの成果】

- ・ eラーニング教材（日本語版&英語版）の開発・公開等（JSPS）
- ・ 研究公正ポータルサイト（日本語版&英語版）の構築・運用（JST）
- ・ 医療分野の研究不正事例集、ヒヤリ・ハット集の作成（AMED）
- ・ 研究公正シンポジウムの開催（3FA連携、毎年度実施） 等

（担当：科学技術・学術政策局参事官（研究環境担当）付研究公正推進室）

令和6 (2024) 年度実績

1. 研究倫理教育教材の開発・普及

(1) テキスト教材 (Green Book) の改訂等

- 日本語版の販売部数：67,457部 (2025.3.24時点)
- 英語版の販売部数：5,995部 (2025.3.24時点)
- ホームページにおいてテキスト版 (日本語版・英語版・製本版) を公開

(2) eラーニング教材 (eL CoRE) の運用・改善等

- 研究者向け・大学院生向け教材
- ・それぞれについて日本語版、英語版を提供
- ・利用者にアンケートを実施し、利用状況および要望等を集計
- ・コースレビューのテキストマイニングを実施
- 登録者数：945,850名 (2024.12.31時点) ※のべ人数

2. 研究倫理教育の高度化

- 第7回JSPS研究倫理セミナー
「研究者倫理教育にグループワークを導入する」の開催 (2024.12.6)
※オンラインセミナーとして実施
- ・eL CoRE既履修者で、研究機関の研究倫理教育担当者64名が参加
- ・専門家による講演やグループワークを実施
- 研究公正シンポジウムの開催 (2024.10.31)
(主催：JST、共催：JSPS、AMED、NEDO、BRAIN)
- ・研究者や研究機関事務担当者などが参加
- ・専門家による講演やパネルディスカッションを実施

3. 不正に関する告発等受付窓口

- メール等により告発等を受付

令和7 (2025) 年度計画

1. 研究倫理教育教材の開発・普及

- (1) テキスト教材 (Green Book) の改訂等
 - 改訂版 (日本語版) の発行。英語版の改訂についても検討
- (2) eラーニング教材 (eL CoRE) の運用・改善等
 - 教材の改修
 - ・Green Bookの改訂を踏まえ、必要な改修を検討

2. 研究倫理教育の高度化

- 第8回JSPS研究倫理セミナーを実施予定 (2025年秋頃)
※対面または、オンラインにより実施予定
- 研究公正シンポジウムの実施
 - ・2018年度より、JSPS、JST、AMEDが持ち回りで実施。
 - ・2025年度はJSPS主催予定。
 - 日時：2025年11月21日 (金)
 - テーマ：オープンサイエンス時代における責任ある研究活動について

3. 不正に関する告発等受付窓口

- メール等による告発等の受付を引き続き実施

研究倫理教育の高度化に関する取組／

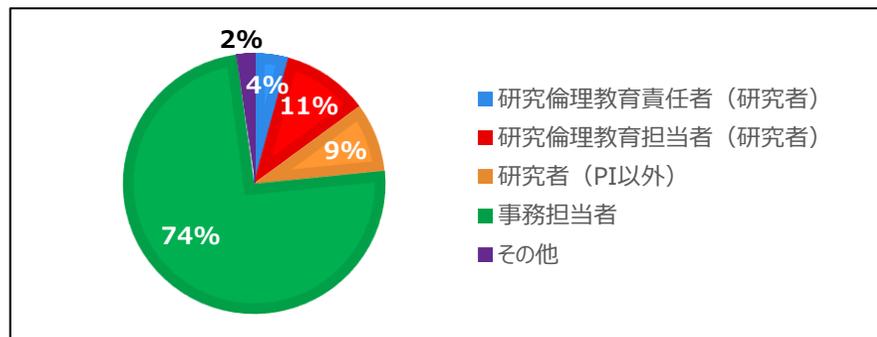
第7回研究倫理セミナー 令和6年12月6日（オンライン開催）

研究機関が研究倫理教育を自主的に実施するための一例として、
グループワークによる方法を実践的に学べるセミナーを開催。

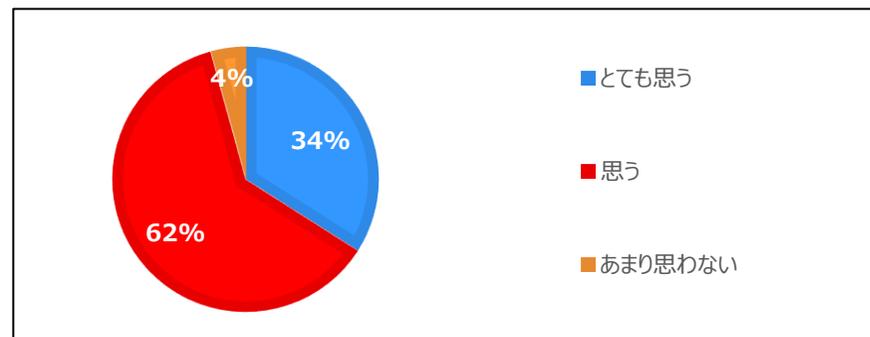
講師：片倉 啓雄（関西大学 化学生命工学部 教授）、中村 征樹（大阪大学 全学教育推進機構 教授）

アンケート結果（受講者64名、回答者47名）

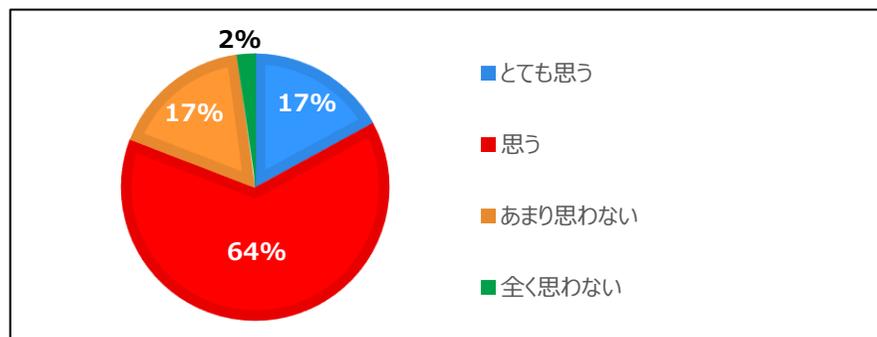
○研究倫理にどのような立場で携わっていますか。



○本セミナーは今後の責任ある研究活動の推進に有効であると思いますか。



○所属機関に戻られて、同様のグループワークを実践してみたいと思いますか。



○主な受講者の声

・研究倫理教育は、座学やe-ラーニング中心で知識を補うことになりがちだが、グループワークを取り入れることは、教職員間の研究倫理の共通理解に有益であり、学部生・大学院生への教育実践にも活用したいと思った。

○今後のセミナーで取り上げてほしい事例学習

- ・好ましくない研究行為の具体的な事例について
- ・二重投稿、サラム出版について
- ・研究費不正について

科学技術振興機構 (JST)

令和6年度実績

1. 研究倫理教育教材の開発・普及

(1) ポータルサイトの作成・配信運営等

- 研究公正・研究倫理に関する様々な情報を配信
- 研究機関の取組やオリジナルの記事等のコンテンツを充実
- 英語版の研究公正ポータル運用
- 研究不正・研究費不正に関するパンフレット（日本語、英語、中国語）の提供（HP・冊子）
- 映像教材「倫理の空白Ⅲ 研究活動のグレーゾーン」公開(2024年5月)
- eAPRIN ビア・レビュー（査読）教材の無料公開

2. 研究倫理教育の高度化

(1) 研究倫理映像教材の制作

- 倫理的な判断・態度の醸成を図るための、学習者の立場や分野等に
応じたケースメソッド式映像教材
「倫理の空白Ⅳ 研究活動のグレーゾーン2（人文・社会科学編、自然科学編）」、令和5年度映像教材の手引書制作

(2) 研修会・シンポジウムの実施

- 研修会（WS）の実施**
 - ・研究倫理教育担当者対象の研修会を実施（7月、12月(2回)開催）
- 出前講習の実施**
 - ・研究機関等からの要望に応じて、JSTによる研究倫理に関する講習会を実施。研究機関で倫理研修を実施する際の参考としてもらうことがねらい
- 研究公正シンポジウムの実施**
 - ・5FA連携により、オンラインにて開催（JST主催（10月） オンライン1,246名参加）

3. 不正防止・対応相談窓口

- 電話・メール相談のほか、ポータルサイトの相談窓口を通じ対応

令和7年度計画

1. 研究倫理教育教材の開発・普及

(1) ポータルサイトの作成・配信運営等

- 研究公正・研究倫理に関する様々な情報を配信
- 研究機関の取組やオリジナルの記事等のコンテンツを充実
- 英語版の研究公正ポータル運用
- 研究不正・研究費不正に関するパンフレット（日本語、英語、中国語）の提供（HP・冊子）
- 映像教材（倫理の空白Ⅳ 研究活動のグレーゾーン2）等の公開

2. 研究倫理教育の高度化

(1) 研究倫理映像教材の制作

- 倫理的な判断・態度の醸成を図るための、学習者の立場や分野等に
応じたケースメソッド式映像教材

(2) 研修会・シンポジウムの実施

- 研修会（WS）等の実施**
 - ・映像教材等を活用し研究倫理教育担当者対象の研修会などを実施
- 出前講習の実施**
 - ・規模や体制等の事情から、研究機関自らでは研究倫理講習を実施しづらい機関を主な対象に、研究機関からの要望に応じて講習を実施
- 研究公正シンポジウムの実施**
 - ・5FA（JSPS、JST、AMED、NEDO、BRAIN）連携により開催予定（令和7年度はJSPS主催）

3. 不正防止・対応相談窓口

- 電話・メール相談のほか、ポータルサイトの相談窓口を通じ対応

前年度に引き続き、「疑わしい研究行為(QRP)」における新たなテーマによる続編として、2つの研究分野におけるストーリー(映像)を制作。

ドラマの視聴とディスカッションを組み合わせたワークショップやグループワークで活用することを想定し、大学における講義、研究機関での講習などさまざまなシーンで使用できるものとした。

令和6年度映像教材のテーマ: データ解析、データ管理

【人文・社会科学編】 視聴時間 約32分

研究職を目指すなら森島准教授の研究室、就職を考えるなら田辺教授の研究室。明立大学で博士号を目指す清水は、森島准教授の研究室へ入り、論文執筆に向けて再現実験をする。しかし、実験結果が仮説にそぐわないことが判明し、仮説を後付けして書いた論文を指導教員に見せて相談する。

【自然科学編】 視聴時間 約32分

清東大学大学院、発生生物学の研究室。神崎教授は、データサイエンスを取り入れた共同研究に希望を見出し、実験の担当者には志村が指名される。最初の実験で神崎の仮説通りの結果が出て喜ぶが、実験結果が徐々に再現できなくなり、焦りを募らせた志村は実験データを選別し始める。



令和6(2024)年度 実績

1. 研究倫理教育教材の開発・普及・高度化

(1) 研究不正に関する事例集

- ・引き続き、日本語版・英語版のホームページ掲載・周知

(2) 研究公正に関するヒヤリ・ハット集 (第2版)

- ・引き続き、日本語版・英語版のホームページ掲載・周知

(3) 適正な画像処理方法～雑誌の投稿規定の解説 (第2版)

- ・「適正な画像処理方法」(第2版:日本語版)の作成 **【NEW】**
- ・「適正な画像処理方法」のホームページ掲載・周知

(4) ヒヤリハットと不適合事例に学ぶ臨床試験のクオリティマネジメント～未然に防ぐリスクと質向上のための実践的アプローチ～

- ・日本臨床試験学会と連携し、臨床研究者、臨床研究専門職の立場に特有の課題や作法等を踏まえたテキスト(日本語版)を作成 **【NEW】**
- ・日本臨床試験学会において本教材を用いたWSを開催 (R7.2)
- ・日本語版のホームページ掲載・周知

2. 情報発信及び連携・ネットワークの強化

(1) RIOネットワーク

- ・研究公正に関する情報について、メールマガジンの定期配信
- ・RIOネットワーク分科会として第10回研究倫理を語る会を共催 (R7.3)

(2) 研究公正シンポジウム

- ・JST主催で5FA (JSPS、JST、AMED、NEDO、BRAIN) 連携により、研究公正シンポジウムを開催 (R6.10)

3. 不正防止・対応相談窓口

- ・書面・電話・FAX・電子メール・面談により、引き続き対応

令和7(2025)年度 計画

1. 研究倫理教育教材の開発・普及・高度化

(1) 研究不正に関する事例集

- ・引き続き、日本語版・英語版のホームページ掲載・周知

(2) 研究公正に関するヒヤリ・ハット集 (第2版)

- ・引き続き、日本語版・英語版のホームページ掲載・周知

(3) 適正な画像処理方法～雑誌の投稿規定の解説 (第2版)

- ・「適正な画像処理方法」(第2版:英語版)の作成 **【NEW】**
- ・「適正な画像処理方法」のホームページ掲載・周知

(4) ヒヤリハットと不適合事例に学ぶ臨床試験のクオリティマネジメント～未然に防ぐリスクと質向上のための実践的アプローチ～

- ・引き続き、日本語版のホームページ掲載・周知
- ・「ヒヤリハットと不適合事例に学ぶ臨床試験のクオリティマネジメント」(第2版:日本語版)の作成 **【NEW】**

2. 情報発信及び連携・ネットワークの強化

(1) RIOネットワーク

- ・研究公正に関する情報について、メールマガジンの定期配信

(2) セミナー・ワークショップ

- ・「適正な画像処理方法」(第2版)を用いたWSを開催予定 **【NEW】**
- ・「ヒヤリハットと不適合事例に学ぶ臨床試験のクオリティマネジメント」の第1版・第2版を用いたWSを開催予定 **【NEW】**
- ・研究公正に関するヒヤリ・ハット集(第2版)を活用したWS開催予定 **【NEW】**
- ・研究データ管理に関するセミナー・WSを開催予定 **【NEW】**

(3) 研究公正シンポジウム

- ・JSPS主催で5FA (JSPS、JST、AMED、NEDO、BRAIN) 連携により、研究公正シンポジウムを開催

3. 不正防止・対応相談窓口

- ・書面・電話・FAX・電子メール・面談により、引き続き対応

『適正な画像処理方法～雑誌の投稿規程の解説～』（第2版）【NEW】

- 生物画像に対する画像処理を対象として、雑誌の投稿規定をもとに適正な画像処理について解説。
- 令和7年3月に第2版を発行（初版から、学術雑誌の投稿規定に係る内容や、画像処理方法に係る内容を追加・更新）



本書の構成

第1章 学術雑誌における画像処理規範

- 1.1 Nature Portfolioの規範
- 1.2 The EMBO Journalの規範
- 1.3 Scienceの規範
- 1.4 NEJMの規範
- 1.5 The Lancetの規範
- 1.6 The BMJの規範
- 1.7 JAMAの規範
- 1.8 JCBの規範

第2章 適切な画像処理方法

- 2.1 画像処理手法の記録・原画像の保管
- 2.2 トリミングと拡大・縮小
- 2.3 装飾的な画像処理を避けたコントラスト強調
- 2.4 ゲル画像の合成

第3章 施してはいけない画像処理方法

- 3.1 画像の切り貼り（コピー＆ペースト）
- 3.2 画像の一部の恣意的な除去
- 3.3 S字状のトーンカーブ加工（非線形の濃度変換）
- 3.4 縦横比の加工
- 3.5 装飾的な画像処理
- 3.6 比較画像の片方のみへの画像処理
- 3.7 画像の一部のみへの画像処理

第4章 AI生成画像に対する基準

第5章 画像処理のチェック用ツールの利用

- 5.1 ノイズの分析
- 5.2 重複の検出

『ヒヤリハットと不適合事例に学ぶ臨床試験のクオリティマネジメント～未然に防ぐリスクと質向上のための実践的アプローチ～』【NEW】

- 一般社団法人日本臨床試験学会と連携し、臨床研究者、臨床研究専門職の立場に特有の課題や作法等を踏まえたテキストブック
- 令和7年2月に初版を作成。



本書の構成

1. 研究準備段階

- (1)倫理審査等の手続き
 - 1-1 倫理審査資料の不足
 - 1-2 研究分担施設における利益相反管理に係る手続き不備
 - 1-3多機関共同研究における研究機関の長の実施許可の未取得
- (2)EDCユーザー管理
 - 2-1 電磁的記録の真正性を脅かすアカウント申請

2. 研究実施段階

- (1)インフォームド・コンセント、オプトアウト
 - 1-1 オプトアウト手続きの未実施
 - 1-2 旧版の同意説明文書による同意取得
 - 1-3 研究責任医師・研究分担医師以外の医師による同意取得
- (2)EDC運用管理
 - 2-1 EDCシステム変更に伴う影響とリスク
- (3)試験薬管理
 - 3-1 使用期限切れの試験薬の研究対象者への投与
 - 3-2 研究計画書に規定された試験薬の投与量の逸脱
 - 3-3 他院への入院時の併用禁止薬の使用
- (4)他職種連携
 - 4-1 変更されたEDCデータが確認されないまま仮固定

3. 研究とりまとめ段階

- (1)データの取扱い・解析、データセットの管理
 - 1-1 不適切なデータの取扱いや解析方法
 - 1-2 データの紛失
4. その他の主なヒヤリハット・不適合事例一覧